

平成26年10月17日

「日立駅」が第12回ブルネル賞（2014年）を受賞しました

都市建設部 都市政策課

日立市が事業を進めてきた「日立駅周辺地区整備事業」において、この度、「日立駅」が鉄道関連では唯一となる国際デザインコンペティション「第12回ブルネル賞（2014年）駅舎部門・優秀賞（Awards）」を受賞しました。表彰式は10月15日にオランダのアムステルダムにて開催されました。

現在の日立駅は、平成23年4月7日、東日本大震災を乗り越え、日立市の新しい玄関口として誕生しました。

各種施設の整備に当たっては、「記憶に残るデザイン」、「誰からも愛されるデザイン」、「ふるさと感じさせるデザイン」そして「全ての人に使いやすいデザイン」を目標に、「まちの顔」としての魅力を高めるため、世界的に活躍をされている妹島和世さん（デザイン提案競技により決定）にデザイン監修に携わっていただきながら取り組んできました。

市としては、今回の受賞を契機に、更に日立駅周辺地区整備事業の優れたデザインをアピールすることを通じて、このデザインを市民のかけがえのない財産として末永く維持していくことに取組んでまいります。



©妹島和世建築設計事務所

<ブルネル賞について>

ブルネル賞は、鉄道に関するあらゆる分野の優良デザインを奨励し促進していくことを目的に、世界各国の鉄道関連デザイナー及び建築家により構成されるワトフォード会議によって、イギリスのグレート・ウェスタン鉄道創立150周年にあたる1985年に設立された賞であ

り、鉄道関連では唯一となる国際デザインコンペティションである。

賞の名称は、イギリスのグレート・ウェスタン鉄道の技師、発明家及び建築家でもあったイザムバード・キングダム・ブルネル（1806年～1859年）の名前から付けられ、2年から3年おきに開催されている。

受賞対象は、駅舎、鉄道インフラ、関連施設、工業デザイン及び車両の5つの部門（カテゴリー）に分かれており、各部門ごとに優秀賞（Awards）と奨励賞（Commendations）が選定される。また、全カテゴリーに応募作品を提出し、全社会的なデザインに対する姿勢に最も優れた企業・団体には審査員賞（Jury Prize for Overall Design Excellence）が贈られる。

<日立駅受賞理由（ワトフォード事務局）>

新しい日立駅は、人口減少問題を抱える日本の地方都市において、魅力的な駅周辺環境整備への要求に応えた成功事例である。駅舎と自由通路は、日立というまちを地域のより良い拠点とし、人々を引きつけるために建設され、人々が交流できる手段を増やし、まちの活気を維持している。

駅舎は線路上空に配置されており、大きく透明感のある自由通路により接続されているが、この通路はまちから海につながるものでもある。そして、海側にはカフェが配置されている。

駅と自由通路は、まちの新しい要素となったが、審査員は、海を称える場所を生み出しただけでなく、原風景を残したものと考えている。

自由通路は、駅利用者や地域住民へ快適性を与え、鉄道駅と一体となっている。

まちの拠点であるこの場所は、過去に見られた大規模で混沌とした空間ではなく、明るく、透明感があり、感じのよい空間であり、駅機能自体は支配的な要素ではなくなっている。駅と自由通路の全体が、利用者を引きつけ、快適に利用できるようにするという明確な目的に沿って、とても丁寧にデザインされている。

<日立駅周辺地区整備事業に関するこれまでの受賞歴>

- ・ 第28回都市計画協会会長賞（平成25年11月）
- ・ 第8回まち交大賞 まちづくり効果賞（平成25年7月）
- ・ 平成25年度都市景観大賞「都市空間部門」優秀賞（平成25年6月）
- ・ 2012年度（平成24年度）グッドデザイン賞（平成24年11月）
- ・ 平成24年度まちづくり功労者国土交通大臣賞（平成24年6月）
- ・ まちづくりグリーンリボン賞（平成23年11月）
- ・ いばらきデザインセレクション2011知事選定（平成23年10月）



<外部リンク>

- ・ Catalogue Brunel Awards 2014 (The Watford Group)
http://watford-group.org/catalogus_def_lowres.pdf
- ・ 東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）
<http://www.jreast.co.jp/press/2014/20141010.pdf>